

ぶつきょうつうしん
仏教通信

こどく
『 孤独について 』

がつごう
10月号

浄土真宗の住職が法話(「じょうねんじ」YouTube)の中で、スポーツライターRyo Ishikawa氏の「愛されないことが孤独なのではない 愛せないことが孤独なのだ」という言葉に感銘し、仏教的に解釈していました。法話を要約すると「人はひとり生まれ、そしてひとり死ぬという孤独な存在です。しかし、その孤独だからこそ、私たちは互いに支え合い、共に生きる喜びを分かち合うことができるのではないのでしょうか。ところが、多くの人が自分中心の考えに囚われ、孤独を感じています。「自分はなぜ愛されないのか」という問いは、自分自身の理想像に縛られ、周囲の人々とのつながりを疎かにしてしまう心のあらわれかもしれません。仏教の「無我」の思想は、この自己中心的な「我」から離れ、他者への共感を育むことへとつながっていきます。」というものでした。仏教では、「私」という存在は一人で生きているわけではなく、多くのつながりの中で生きていることを教えてくれます。そして、親鸞聖人は、このことを「他力」という言葉であらわし、私たちは阿弥陀如来の慈悲によって救われると説かれたのです。冒頭の「愛されないことが孤独なのではない 愛せないことが孤独なのだ」というフレーズは、心に突き刺さる鋭いワードでありながらも、私たちに「愛すること」の大切さを教えてくれる言葉でもあります。「愛」とは、自分中心の「自己愛」や「愛欲」ではなく、他者を思いやり、共に生きる喜びを分かち合う「利他」の心なのです。この他者を思う優しさこそが、孤独を恐れる「私」を救い出してくれる道なのではないでしょうか。



がつしやう
合掌